



テクネ・マクラ「芸術は永し」

TEXNH MAKPA

女子美術大学歴史資料室 ニュースレター

第 17 号

2024（令和 6）年 3 月 31 日発行

News Letter, vol. 17

University's Historical Resources Unit,
Joshi University of Art and Design



JOSHIBI UNIVERSITY OF ART AND DESIGN

展覧会「女子美術大学所蔵 藤田文蔵作品展」開催

高橋 直子（歴史資料室学芸員）



図1 藤田文蔵



図2 女子美術大学所蔵 藤田文蔵作品展 会場風景

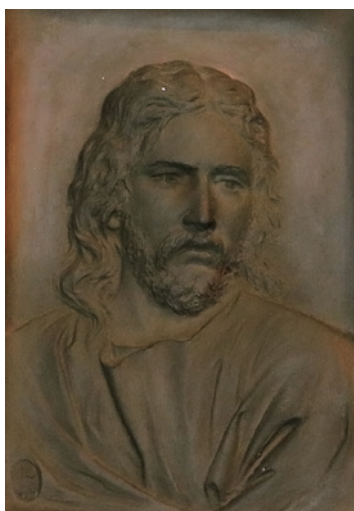


図3 藤田文蔵《基督の一瞥》石膏レリーフ・着色 1927年 表 裏



図5 藤田文蔵《ベートーベン胸像》石膏像・着色 制作年不詳

女子美術大学歴史資料展示室では、令和5（2023）年4月5日～7月15日に展覧会「女子美術大学所蔵 藤田文蔵作品展」を開催しました。藤田文蔵（1861-1934）は、因幡国（現鳥取県）に生まれ、日本初の官立美術学校・工部美術学校において西洋彫刻を学びます。同校画学科には7名の女性が入学し男女共学が実現しました。文蔵が学んだのは彫刻科でしたが、同校が美術を志す女子を受け入

れたことは、彼のその後の教育観に少なからず影響を与えたことと思われます。その後、彫刻家として活動しながら、東京美術学校（現東京藝術大学）で後進を指導します。

教育家の横井玉子と教会活動を通じて知り合い、明治33（1900）年、ともに私立女子美術学校（現女子美術大学）を設立させます。初代校長に就任したほか、彫塑科教員としても教鞭をとりました。開校当初、彫

塑科専修科に2名の生徒が入学しています。女性が西洋美術を学ぶことに無理解であった当時において私立女子美術学校彫塑科にて西洋彫刻教育が行われたことは特筆すべきことといえます。

その一方で、生涯を通じて熱心にキリスト教伝道を行いました。大正12（1923）年、関東大震災直後より世田谷太子堂にて伝統活動を始め、翌年、世田谷基督教会（現世田谷キリスト

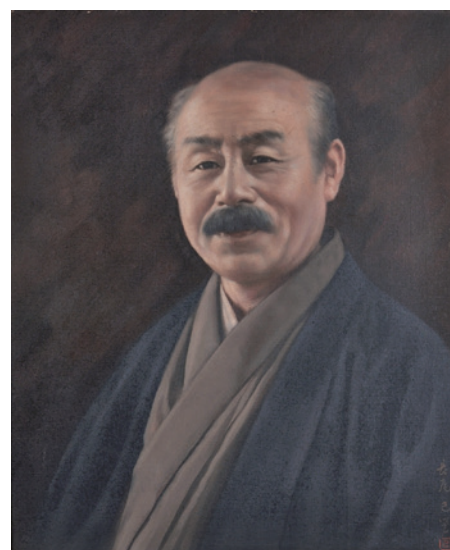
教会）を設立。大正14（1925）年には幼稚園を設立しました。晩年、視力が衰え失明に近い状態になりながら教壇に立ち続け、昭和9（1934）年3月9日、72歳で永眠しました。

女子美術大学に藤田文蔵作品は残されていませんでしたが、幸いなことに、近年、関係者の方々のご厚意により作品や資料をご恵贈いただきました。

現在、女子美術大学歴史資料室では10点の藤田文蔵作品を



図4 藤田文蔵《龍》石膏レリーフ・着色 制作年不詳

図6 藤田文蔵《ゴディバ (犠牲)》
石膏レリーフ 1927年図7 長尾 己《藤田文蔵肖像》
油彩・カンヴァス 制作年不詳

所蔵しています。そのうち6点はキリストの肖像レリーフです。そのうちの一つである《基督の一瞥》(図3)の裏面に「教友 賀川豊彦、木村靖」による「死する7年前日本人として親しみ且敬慕すべき基督を刻まんとの本願がこの信仰精神の上に顕れ 力作せられたるものが本作品である」という記載があり、昭和2(1927)年の制作とわかります。それ以外の制作年は不詳です。

キリスト以外の4作品の中で、《龍》(図4)、No.3《ベートーベン胸像》(図5)、《ベートーベン》はいずれも制作年不詳で、《ゴディバ (犠牲)》(図6)のみ昭和2(1927)年の制作であることが判明しています。《ゴディバ (犠牲)》は、重税を課そうとする夫を戒め、苦しむ領民を救うために自らを犠牲にした11世紀の英国の伯爵夫人レディ・ゴディバの物語をテーマにしており、詩人アルフレッ

ド・テニソンの詩にウィリアム・ホルマン・ハントが描いた絵をもとに制作されました。

上記の作品以外に他の作家による作品が3点あります。そのうち2点は、長尾 己(1893-1985)による藤田文蔵と妻・藤田常盤の油彩肖像画(図7)です。長尾は白馬会洋画研究所にて黒田清輝らに学び、文展・帝展で入選を果たした画家です。宗教画やマッカーサーなどの肖像画を多く手がけました。

また、キリスト教者として全国の教会にて伝道活動を行った人物でもあります。もう1点の藤田文蔵の肖像レリーフには、「N.Yamanaka」と刻まれていますが、作者の詳細については不明です。

本展が改めて藤田文蔵の生涯や創業者・初代校長としての功績を顕彰する機会となり、さまざまな反響や新たな情報をいただくことができました。

展覧会「2023年度 新収蔵資料展」開催

森本 美乃里（歴史資料室職員）



図1 女子美術大学附属幼稚園 砂絵作品 年代不詳



図2 2023年度 新収蔵資料展 会場風景



図3 磯野吉雄《温情馥郁》1946年頃



図4 ワンダーフォーゲル部 部誌『草鞋』
No.1～5 1957～1958年、1960～1962年

女子美術大学歴史資料展示室では、令和5（2023）年9月13日～令和6（2024）年3月15日に展覧会「2023年度 新収蔵資料展」を開催しました。本展では、令和4（2022）年度に収蔵した新資料を中心に未公開の資料を展示公開しました。

昭和43（1968）年から平成2（1990）年まで神奈川県茅ヶ崎市の地に女子美術大学附属幼稚園がありましたが、本展では、同幼稚園の資料を紹介しました。《第1回女子美術大学附属幼稚園卒園式 サウンドテープ》は、昭和45（1970）年の

第1回幼稚園修了式の音声を録音したもので、園関係者からの祝辞や園歌などを確認できます。展示室内にQRコードを掲示し、録音されていた園歌をウェブ上で聞けるようにしました。関連資料として、第12回女子美術大学附属幼稚園修了式（1989年）の式次第や園児が制作した砂絵作品を展示しました（図1）。

また、私立女子美術学校（現女子美術大学）開校時から15年間西洋画科教員を務めた教育者・洋画家である磯野吉雄の書画作品《温情馥郁》（図3）を

紹介しました。磯野が本学退職後、「磯野学申」として書道界で活躍したことを示す作品です。作品タイトルの「馥郁」とは「よい香りがただようさま」という意味です。磯野は、一方で、磯野化学研究所を設立し、「ドン白粉」という白粉を開発していたことが今回関係者のご教示により分かりました。その関連資料として磯野のエッセイ「匂いの話」や白粉の広告を紹介しました。

活動を終了したワンダーフォーゲル部より寄贈を受けた資料群より、部誌である『草

鞋』No.1～5や創立60周年記念品（図4）を展示しました。同誌には一年間の登山記録や部員のコラム等が掲載されています。

資料の他に、本歴史資料室において実践している資料収集・管理方法についてもバナーにて紹介いたしました。

本展が資料室の活動に理解を深めていただく機会となれば幸いです。今後もコレクションの充実を目指し、収集活動を進めていきたいと思ひます。

2023年度 参加型アーカイブズ 報告

高橋 直子（歴史資料室学芸員）

授業・大学の様子の画像をご提供ください。

ゆみ子
本学開校当時の
町町校舎が名前の由来

歴史資料室より

杉並キャンパス 6号館 1階
アルコールの設置

目的

歴史資料室では、2020年度より、コロナ禍での授業・大学の様子を歴史資料として残すため、画像（映像・テキスト）の提供を呼びかけてきました。この活動はコロナ禍に限らず、今後続けていき、「大学の今」を未来に残したいと考えています。ご提供いただいた画像は、『創立130周年（仮）』やウェブサイトなどに掲載させていただきます。

撮影のポイント！

① コロナ禍を示す生活様式・記念事業など、「今」だからこそ撮れる写真をぜひ撮影してください。
② 学生の個人が特定されないように、正面（顔）からの撮影を避けてください。
③ 教職員の顔が写る際は、ご本人の了承を得てください。

芸術学部美術学科洋画専攻研究室による
学生が自宅で実践を行うためのキット準備の様子

120周年に
載りました！

テキストのみの
投稿も募集中！

上記QRコード、または歴史資料室ウェブサイトより投稿いただけます。
※現在は教職員のみを対象にしています。
<https://onl.bz/RC3IQ6g>

【問い合わせ先】
歴史資料室 事務室 内線 121（担当：高橋）

図1 参加型アーカイブズ チラシ 2023年版

女子美術大学歴史資料室では、令和2（2020）年度よりコロナ禍における授業や大学の様子をアーカイブズとして保管するため、学内教職員に画像・映像・テキストを投稿してもらった「参加型アーカイブズ」を実施してきました。この活動は、現在も“大学の今”を記録するため、引き続き実施しています（図1）。

令和5（2023）年度に投稿されたうちの一部を紹介します。図2は、コロナ禍のPCルーム（相模原キャンパス）です。新型コロナウイルス感染対策のため使用できるPCの利用を制限した令和2年の様子を投稿いただきました。

図3は、令和5年7月、杉並キャンパス1号館増築工事に伴い、1号館南口に設置されてい

たヴィーナス像を1号館西側の入口に仮説した様子です。

また、参加型アーカイブズを通じてではなく、直接、歴史資料室にご寄贈いただいた画像などデータの一部を紹介します。

令和5年4月、相模原キャンパス図書館1階が改装工事を経てリニューアルオープンしました。図4はグループレラーニングルーム、図5はオープンディス

カッションエリアです。

山野雅之氏（女子美術大学名誉教授）は、平成4（1992）年から本学の教育の中でヒーリング・アート（癒しの芸術）をテーマに医療空間のアメニティを高めるアートプロデュース、学生への制作指導、トータルコーディネートやそれらの検証を続けてこられ、これまで約50か所の国公立病院、大学病



図2 コロナ禍のPCルーム（相模原キャンパス） 2020年
投稿者：職員



図4 相模原キャンパス 図書館 グループレラーニングルーム 2023年
提供：女子美術大学図書館



図5 相模原キャンパス 図書館 オープンディスカッションエリア 2023年
提供：女子美術大学図書館



図3 ヴィーナス像 引越し 2023年 投稿者：職員



図6 日赤医療センター旧小児外来廊下 1999年 提供：山野雅之氏



図7 北里大学病院 原画制作 2013年 提供：山野雅之氏



図8 北里大学病院 小児外来診察室 2013年 提供：山野雅之氏

院などのプロジェクトに取り組まれました。今回、歴史資料室に25件のプロジェクト（1999年～2021年）についての資料や画像をご寄贈いただきました。

大学全体で取り組んだ最初期のプロジェクトである日赤医療センター旧小児外来の待合の廊下壁面には1時間以上待

たされる子どもが壁に寄りかかり、つけられた靴跡がありました。プロジェクトを通じて壁画が設置された後はまったく汚されなかったといいます。また、診察を怖がり母親に引きずられるようにしてきた子どもが、絵をみて「お母さん、花がきれい」といっ

て泣き止む場面があったそうです（図6）。

平成26（2014）年には、建て替えられた北里大学病院 小児外来・小児病棟の空間を演出。図7は原画制作、図8は小児外来診察室の様子です。寄贈いただいたプロジェクト資料は歴史資料室で保管し、閲覧など

のご希望があれば対応いたします。

参加型アーカイブズは、今後も本資料室の資料収集活動として続けていきます。

歴史資料室ウェブサイトにおいて過去の投稿を紹介していますので、ご高覧ください。

<http://www.joshihi.net/history/>

2023（令和5）年4月～2024（令和6）年3月

2023年4月

- 展覧会「女子美術大学所蔵 藤田文蔵作品展」開催（4月5日～7月15日）。



- オンライン授業「基礎学習ゼミ 自校史」（3回）実施。
○石井妙子氏著『近代をんな列伝』（文藝春秋）のために横井玉子画像提供。
○金智英氏 論文掲載のために1914年裁縫科教室他2点画像提供。
○大崎綾子教授 服飾文化学会発表のため刺繍科学生・教員他3点画像提供。

2023年5月

- 吉良智子氏著『新版 女性画家たちの戦争』（平凡社）掲載のために菊坂校舎画像提供。

2023年6月

- 相模原キャンパス・スイッチラボにてバナー展示「菊坂の女子美―戦災により焼失した本郷菊坂校舎の時代をふりかえる」開催（6月9日～6月30日）
○工芸専攻ウェブサイト掲載のために工芸科関係画像提供。
○付属中学校1年生見学（4クラス 144名）、教諭4名。

2023年7月

- 杉並区立杉並第十小学校6年生見学（児童82名、教諭4名）。
○相模原キャンパス美術館ロビーにてバナー展示「菊坂の女子美―戦災により焼失した本郷菊坂の時代をふりかえる」開催。
○ワークショップ「カラフル粘土でレリーフをつくろう」開催。講師：笠原光咲子氏（非常勤講師）。



- 展覧会「女子美術大学所蔵 藤田文蔵作品展」終了。
○2023年度第1回歴史資料整備委員会開催（対面及びオンライン）。
○オーラルヒストリーアーカイブズとして日本画卒業生にインタビューを行った。



2023年8月

- 雑誌『薫風』紙面・オンライン記事掲載のために工芸科工房写真（1967年頃）1点提供。
○女子美術大学美術館博物館実習8月28日、30日、9月1日担当。

2023年9月

- 展覧会「2023年度 新収蔵資料展」展開催（9月13日～3月15日）。



- 『桐生市史研究』創刊号のために磯野吉雄（初代西洋画科教員）写真など提供。

2023年10月

- 一般社団法人女子美術大学同窓会 女子美祭イベントのためにパネルデータなど提供。

2023年11月

- オーラルヒストリーアーカイブズとして第7回女子美栄誉賞受賞者 石垣昭子氏にインタビューを行った。
○「2023年度女子美術大学退職教員記念展」内山博子教授展示のためコンピューター教育関係画像を提供。
○JoshiAiAIR 伊藤夏実氏 制作のための調査に協力、画像提供。

2024年3月

- 展覧会「2023年度 新収蔵資料展」終了。
○女子美術大学歴史資料室ニューズレター『TEXNH MAKPA テクネ・マクラ「芸術は永し」』第17号発行。

News Letter, vol. 17-5

寄贈報告

2023（令和5）年4月～2024（令和6）年3月

作品・資料をご寄贈いただいた方のお名前を記し、感謝の意を表します。（寄贈順）

- 森 龍朗氏 屏風・イーゼル・画集など
- 羽生 基雄氏 藤田文蔵関係資料
- 株式会社文藝春秋 石井 妙子著『近代おんな列伝』
- 劇団民藝 『奈良岡朋子1929-2023』
- 佐野 壮氏 佐野ぬい氏旧蔵 創立110周年記念個展時着用ドレスなど
- 常松 大純氏 ドラマ「ガラスの壁」台本

歴史資料の寄贈について

女子美術大学歴史資料室では本学の学校史・教育に関係する歴史資料の収集を行っております。収集にご協力いただける場合は、歴史資料室までご連絡ください。ご厚意に沿えない場合もありますので、あらかじめご了承ください。また、寄贈いただいた資料の取り扱い、歴史資料室に一任ください。

News Letter, vol. 17-6

歴史資料整備委員会委員紹介

2023（令和5）年度 歴史資料整備委員会委員

- 委員長 原 聖（研究所客員研究員）
副委員長 広瀬 晴美（芸術学部准教授）
委員 八木なぎさ（短期大学部教授）
馬場 章（外部嘱託委員）
小林 信恵（外部嘱託委員）
玉田里佳子（歴史資料室長）
守屋真奈美（事務職員）
川上 勇（事務職員）

2022年インタビューにご協力いただいた
本学元学長、名誉教授の佐野ぬい氏が
2023年8月23日、90歳でご逝去されました。
ここに謹んで追悼の意を表します。

News Letter, vol. 17-7

表紙写真

私立女子美術学校 寄宿舎 生徒写真

明治34(1901)年11月15日

本資料裏面には「東京女子美術学校／寄宿舎 同生窓の者々／明治三十四年十一月五日／日本画科生／須田澄江」（原文ママ）と記載されている。撮影したのは、池之端仲町通の写真師・宮内幸太郎。私立女子美術学校が開校した明治34（1901）

年11月の写真である。当時、同校は本郷弓町に校舎を構えており、同じ校地に寄宿舎があった。寄宿生たちで連れ立って写真館に行き、記念撮影した一枚と思われる。



テクネ・マクラ 「芸術は永し」

TEXNH MAKPA

女子美術大学歴史資料室 ニュースレター

第 17 号

発行日：2024（令和6）年3月31日

編集・発行：女子美術大学歴史資料室

制作・印刷：株式會社 日相印刷

女子美術大学歴史資料室

〒166-8538 東京都杉並区和田1-49-8 女子美術大学1号館1階

TEL：03-5340-4658 FAX：03-5340-4683

E-mail：heritage@venus.joshihi.jp

URL：http://www.joshihi.net/history/

